

日本製鉄のグリーン鋼材 電路支持材に採用

黒ZAMで

日本製鉄は24日、同社のマスバランス方式を適用したグリーンスチール「NSカーボレックス・ニュートラル」が南電機（本社＝大阪市西区、岡崎英雄社長）の電路支持材向けで、高耐食めっき鋼板「黒ZAM」として初採用されたと発表した。電路支持材でも初。対象

製品における鉄鋼製造プロセスでのCO₂排出量の100％に相当する削減量を割り当てる。製造場所は瀬戸内製鉄所阪神地区（堺）で5月に出荷予定。黒ZAMは日本製鉄が製造する溶融めっき鋼板ZAMに特殊な工程を付加し、めっき層そのものを黒色化した

「黒色めっき鋼板」で、曲げ加工、プレス加工を施しても黒色意匠が



黒ZAM製ケーブルラック（提供＝南電機）

確保できる。低カーボンフットプリント（CFP）での黒色意匠付与を実現している点が、施主から高く評価されており、公共建築物を中心に採用実績を増やしつつある。

南電機は建築物に利用されるケーブルラック・レースウェイなどの電路支持材を製造販売している。昨今の耐震ニーズから天井パネルを設置しない「表し天井」への「黒色資材ニーズ」に着目。2019年からは黒ZAMを素材とし、後塗装で発生するCO₂の排出削減できる電路支持材を販売している。同社はスコップ3上流における温室効果ガス（GHG）排出量削減に寄与する「NSカーボレックス・ニュートラル」が、カーボンニュート

ラル社会の実現に向けた企業の活動として必要な対策の一つと認識し、採用に至った。